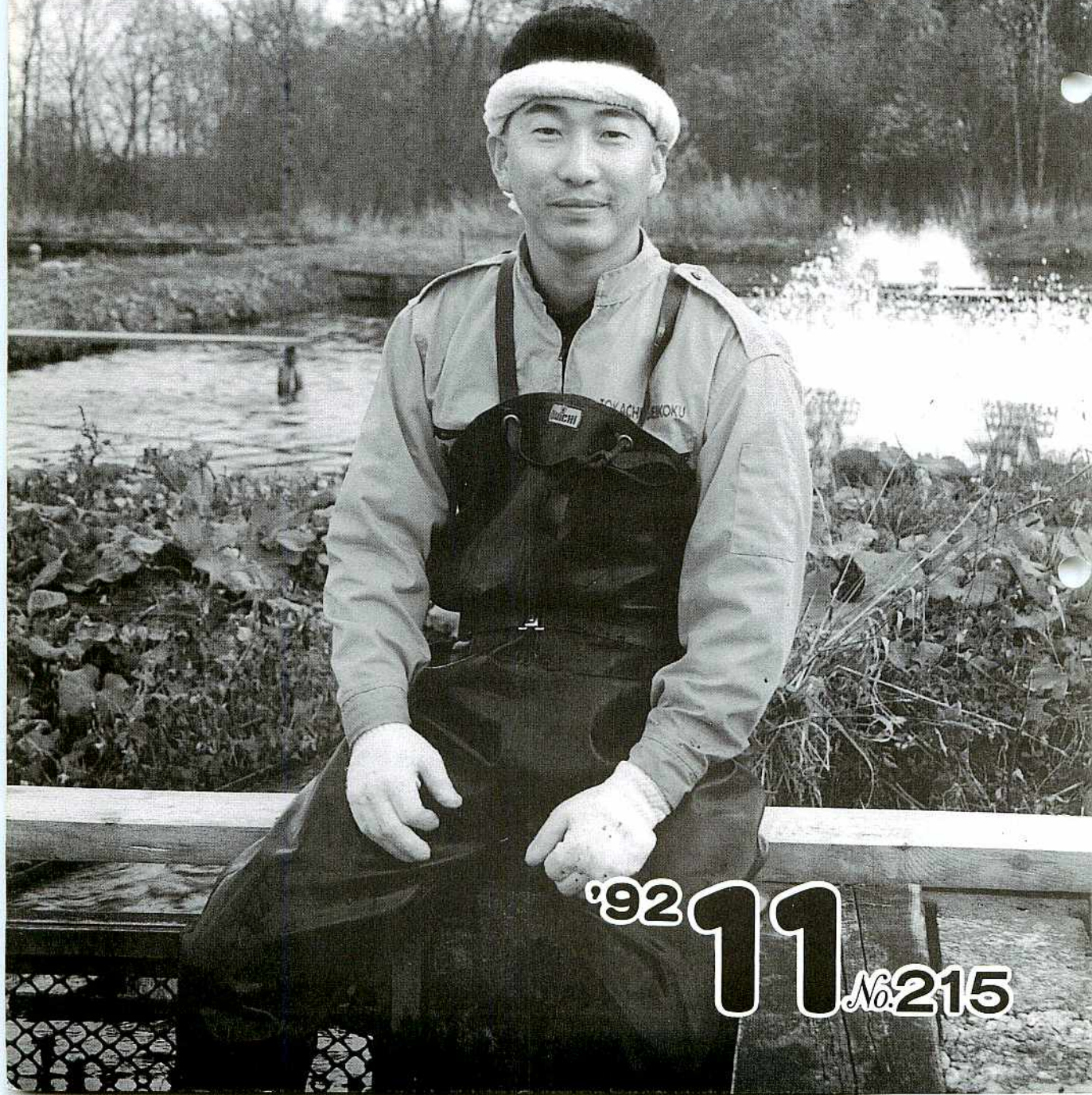


のうきよう まがしづ



'92 11 No. 215

のうきょう ものがいづつ

秋の稔りを迎え、

マルチ栽培による

デントコーンの刈り取り。



もくじ

- 3 ——— 〈シリーズ〉
未来を担う若者 No.7
安達 政宏
- 4~5 — みんななかま
- 6~7 — 〈営農技術〉
我が家の経営展開を考える
北根室地区農業改良普及所
- 8 ——— 〈わが家の人気者〉
今年は黄色いウサギになるの
佐藤 唯ちゃん
- 9 ——— 熟年会秋期研修会
- 10~14 — ヨーロッパ酪農事情視察に参加して
理事 上村 重光
- 15 ——— 農協の財務状況
- 16~17 — 府県酪農視察研修
理事 鈴木 祥幹
- 20~21 — 乳牛改良同志会乳牛消流地視察
桜井 幸一
- 23 ——— 理事会の経過
- 25 ——— 〈暮らしの知恵袋〉
いずし中毒はおそろしい
北根室地区農業改良普及所
- 26~27 — 今月のフォトアルバム

あす 未来を 担う若者

東武佐 安達 政宏さん(28歳)



需要のバランスを考え、人気のある魚の養殖を考えている

実践を通して対策を考える

東武佐の三栄農場は馬鈴しょ五ha、てん菜十四ha、肉牛四十八頭、魚約六十万匹を養殖する安達勉さん、榊雄さん、武さんの共同経営である。この農場で肉牛部門と魚の養殖を担当するのは安達政宏さん(勉さんの長男)二十八歳。高校を卒業してからこの部門を

後は自分で哺育から取り組んでみたいと話す。また、安達さんでは魚の養殖部門も大きな経営の位置にある。今養殖しているのはヤマベ、ニジマス、銀鮭、ドナルドソンなど約六十万匹。魚の種類により採卵の時期が異なり、ヤマベ九月末、銀鮭十一月、ニジマス二月末となっ

担当して十年になる。肉牛については昨年施設を建設、哺育後の牛を購入し約六ヶ月間育成する。畑作專業である安達さんにとっては、まったく初の試みであり、肉牛導入に踏み切るまでには色々悩んだようですが、「堆肥の有効利用や、輪作による牧草の利用を考えるとメリット的にも大きいものがあるし、牛の育成そのものについても利益は出て来るはず。それに実際にやってみないと答えは出ない」と複合経営の取り組みに挑戦的だ。

肉牛を導入して一年が経過したが、技術的にはこれから、牛の状態の確認面や餌の調整などまだまだ勉強しなければならないが、今

ているようで、この時期が一番忙しいと言う。普段の仕事では、朝六時から魚に餌をやり、池を見廻り病気の魚のチェックをする。この仕事で約一時間半はかかり、魚の種類、季節によっては一日三回の餌やりがあるそうだ。

また、夏場はつり堀りもやっていて一日中店番。それとヤマベの加工品も作り、注文がくると配達もする。このヤマベの加工品は養老牛温泉、Aコープ、飛行場、バスセンターなどに卸し、観光客にもなかなか人気があるそうです。

この養殖業も安定している様に見えるが、需要のバランスで結構価格の変動があるとの事。それに



今年、台風十七号の大雨で川が決壊し、池に入る水がなくなり、大量の魚が窒息死する被害に合ったという。「自然を利用した養殖も大きな自然の力には勝てないが、この体験をもとに対策を考え、同じ事を二度と繰り返す事のないようにしたい」と話す政宏さん。

牛の管理、魚の養殖と忙しい毎日ですが頑張ってほしいものです。



毎日毎日が、勉強と牛の世話にも力が入る

なかま

仲間・はなし



アメニティの創造をめざして 第4回全国農村アメニティ協議会総会開催される

全国農村アメニティ協議会主催による、同協議会総会及びシンポジウムが十月九日〜十日、中標津町トーヨーグランドホテルを会場に、全国の各町村から百八十人の関係者が出席し行なわれました。九日午後一時から開会式の後、シンポジウムに入り、中標津町の新出町長を始め、女満別町、池田町、岩手県胆沢町などの代表者がそれぞれの町の環境や推進事業、町づくりとアメニティのつながりなどをスライドを通して紹介した。その後、「北海道からむらづくり情報の発信」というパネルディスカッションが五十嵐智嘉子氏（北海道開発問題研究調査部長）の司会で行なわれ、中標津町からは長正路清氏がパネラーとして出席、「酪農における生産現場での環境整備に、意識をもって取り組んでいかなければならない。また、農村部だけではなく、中標津町全体のエリアの中で考えて行かなければならない」と発言、その他に南越町、池田町、女満別町、新得町からの代表者に



中標津町を代表して情報発信した長正路さん

北海道から
むらづくり
の情報発信

より、町活性化の取り組みや青年団でのイベント企画など、色々な発想の情報が発信されました。翌日には協議会の総会が行なわれ、記念講演として農村アメニティコンクルールの審査員を務める勝原文夫氏（徳山女子短期大学学長）により、「農村アメニティと風景」と題して、農村風景に対する意識などを解説されました。

家の光協会発行の「子供の光」誌に、弾正原あかねさんの書いた作文が掲載されましたのでご紹介します。

父が工場で作る おいしいアイスクリーム

北進 弾正原あかね

みなさんは北海道の代表的な景色というと、どのようなものをお考えですか。広い草原でのんびりと草を食べるにゆう牛、そんな絵や写真を見たことがあると思います。そう、北海道は牛にゆう王国なのです。

わたしの家でもウシを百六頭飼っています。牛しゃでの仕事は、



いつも明るい、あかねちゃん

みんな、

仲間・はなし



両親とおじいちゃんやほとんどやっています、わたしも夜には妹といっしょに、子ウシにえさや水をやっています。

北海道には、牛にゆうを使った特産品がたくさんあります。わたしの住む中標津町にも、アイスクリーム、ゴーターチーズ、ミルク酒があります。とくにアイスクリームは、父が毎日ではありませんが、夜に近くにある工場にいつて作っています。それで、お父さんは夜はほとんど家にいません。でも、そこで作られたアイスクリームは、とてもおいしいんです。北海道のにゆう製品は最高です。

中標津小学校三年生百四十二人が九月二十九日、吾妻牧場へ酪農の仕事についての牧場見学に訪れその時のお礼、感想文が届きましたのでご紹介いたします。

吾妻牧場のみな様へ

中標津小学校三年四組 佐々木 剛
この前は、とてもお世話になりました。ぼくたちは、らく農の仕事につ

いて見学させてもらいどうもありがとうございました。

けんめいがんばっていますか。ぼくたちも勉強がんばっています。バルククーラーやサイロやミルクカーやいろいろなきかいを使ったり牛のせわをしたりしたいへんです。

サイロが大きい事やバルククーラーの大きい物を使っていてすごく思いました。

朝五時から始めますがねむくありませんか。

夜は何時かわかりませんが終わった後つかれるでしょうね。うちのお父さんも仕事が終わって帰ってくる、「つかれたなあ」と言います。牛にさわる時、こわくありませんか。

この前は、おいそがしい時に見学をさせてもらってありがとうございます。ありがとうございました。

吾妻牧場のみなさんお元気でさようなら。

中標津小学校三年二組 佐藤 慶彦
あずま牧場のみなさん、こないだはどうもありがとうございました。ぼくたちは、あずま牧場のく

ふうがいろいろわかりました。でも、もつとあずま牧場のことが知りたかったです。

ぼくたちは牛舎のよこのクワカタの死体にねつちゆうしています。

来年の三年生もすてきな、あずま牧場に来ると思います。来年の三年生たちにもいろいろなことをおしえて下さい。

それとそんな大きなあずま牧場を二人から四人ぐらいの人でよくはたらけるなあと感じました。ぼくたち三年二組の中にも二人、らく農をやっている人がいます。

ぼくは牛舎の中はもつときたないだろうな、と思っていました。でも牛もたてものもきれいでしたね。きつとあずま牧場の牛乳はとてもおいしいでしょうね。

それから、牛たちもしあわせだと思えました。

あずま牧場のみなさん体に気をつけて何年も、何年もはたらいして下さい。

ぼくたちも勉強や体育をがんばります。

それではさようなら。

我が家の経営 展開を考える



生乳の大幅な生産増に支えられ

た形の今年の酪農経営。これは経営者自らの意思決定による方向と
言うよりも、個体販売を取りまく
情勢の変化によるものと言わざる
をえません。「どこまで生産を拡大
すれば?」、よく聞かれる言葉です
が、答えはやはり経営者自らが出
さなければなりません。

そのためには、自己の経営を正
確に分析し、経営目標を明確にす
る必要があります、その目標達成のた
めの具体的行動を整理したものが、
長期営農計画となります。その一
連の作業をお手伝いするものとし
て、コンピュータを利用し、迅速
かつ応用性に富んだ長期営農計画
作成システム「夢道場」を紹介し
ます。

一、長期営農計画の必要性(目標
の見極めと具体的戦略の決定)

「来年の営農計画も四苦八苦な
のに長期計画なんか」と言われる
かもしれませんが、はたしてそう
でしょうか。旅行に例えると、長
期計画は目的地の選定と、目的地
までの地図を準備する事に当たり
ます。目的地を持たない旅はあり
えず、地図を持たなければ迷いか
ねません。

将来目標を見据えた中での、毎
年の営農計画樹立、計画に基づく
実践、結果の評価、計画の見直し
この積み上げがやがて大きな目標
に到着する道程となります。将来
目標の見極めと戦略の決定、その
プロセスとしての具体的行動の決
定、前者が長期計画であり、後者

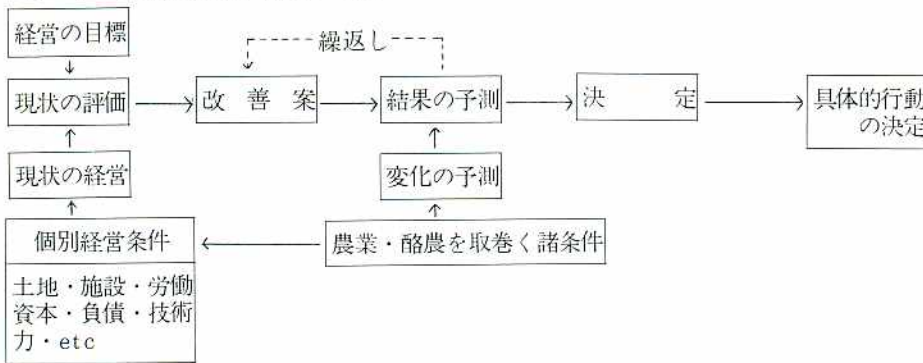
が毎年の営農計画と言えます。

図一に長期営農計画作成の流
れを示しました。これは一度や二
度で答えがでるものではなく、納

得のいくまで繰り返す必要があり、
じっくりと腰を据えての取組みが
重要です。

二、「夢道場」とは
本システムは根釧農試経営科、
釧路管内普及員経営部会が中心と
なって作成された物であり、乳牛
増殖計画、牛乳生産計画、営農実
績(組勘、乳検成績など)に基づき、
今後五〜十年間の経営収支をシミ
ュレーションし、中長期の計画を
作成します。また、各種技術系数
や販売価格の変更に、経営収支に
及ぼす影響を瞬時にシミュレーシ
ョン、グラフ表示し、多くの代替
案の作成、検討が可能となってい
ます。

図一 長期営農計画作成の流れ



「夢道場」の名前には、「利用者
の創造性をフルに発揮し、酪農家
の経営手腕を磨いて欲しい」との
願いが込められておりと聞きます
我が家の経営をじっくりと考える
機会、漠然とした目標をより具体
化し、確認する機会に役立つもの
と考えます。

利用を希望される方、詳しい事
をお聞きになりたい方は普及所ま
でお問い合わせください。

「夢道場」印刷・グラフの出力例

生乳生産及び乳牛増殖・販売計画

普及 太郎
010101

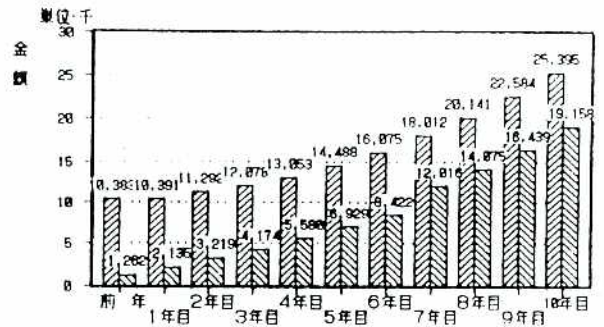
92/02

☆乳牛増殖計画

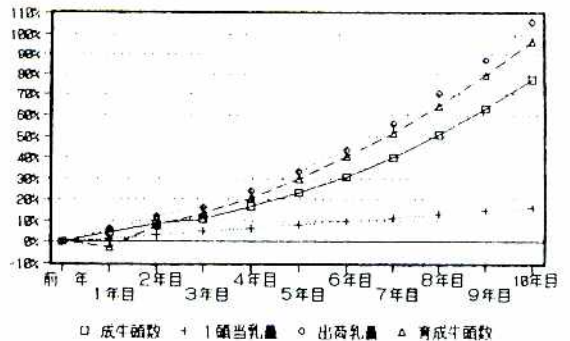
実績

項目	単位	3年前	前々年	前年	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	備考
1. 期首頭数	頭			45.0	45.0	49.1	48.8	51.0	53.8	前年度の5.記入
2. 自家購入	頭			10.0	16.6	11.9	15.2	16.3	17.4	前年度の8.19.-32.=30.
3. 購入	頭			1.0						
4. 販売・引取頭数	頭			10.0	12.5	12.4	12.9	13.4	14.1	35.+37.
5. 期末頭数	頭			45.0	49.1	48.8	51.0	53.8	57.1	1.12.+3.-4.
6. 平均経産牛頭数	頭			45.0	47.0	48.9	49.8	52.4	55.4	(1.+5.) / 2
7. 0~11ヶ月齢	頭			17.0	19.0	19.8	21.2	22.9	24.8	18.-20.-21.+23.
8. 12~23ヶ月齢	頭			9.0	13.0	15.6	15.8	17.2	18.9	25.-27.-28.+30.
9. 24ヶ月齢以上	頭			11.0	3.4	4.5	4.9	4.5	4.3	32.-33.+34
10. 育成牛頭数計	頭			37.0	36.0	39.9	41.9	44.6	48.0	7.18.+9.
11. 総頭数	頭			82.0	85.1	88.6	92.9	98.4	105.1	5.+10.
12. 疾病・事故率	%/100	17	17	0.143	0.170	0.170	0.170	0.170	0.170	入力
13. 経産牛率	%	17	17	0.549	0.577	0.549	0.549	0.547	0.543	5./11.
14. 産子率	%				0.843	0.858	0.873	0.889	0.905	1.2/16.+17.
15. 初産月令	ヵ月			29.0	28.6	28.2	27.8	27.4	27.0	設定値
16. 分娩間隔	ヵ月			14.2	14.0	13.7	13.5	13.2	13.0	設定値
17. 安全率	%/100				0.980	0.980	0.980	0.980	0.980	設定値
* 経産牛の更新率	%	17	17	0.178	0.202	0.203	0.201	0.200	0.198	
18. ♀ 生産	頭			18.0	20.8	20.8	22.2	23.9	25.8	6.×14./2
19. ♂ 生産	頭			22.0	20.6	20.8	22.2	23.9	25.8	6.×14./2
20. ♀ 販売	頭			1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	1.0	入力
21. ♀ 購入	頭									入力
22. ♂ 購入	頭			22.0	20.6	20.8	22.2	23.9	25.8	入力
23. ♀ 購入	頭									入力
24. ♂ 購入	頭									入力
25. ♀ 生産	頭			13.0	17.0					農家所得の推移(予測)
26. ♂ 生産	頭									
27. ♀ 販売	頭			1.0	1.0					
28. ♀ 購入	頭			3.0	3.0					
29. ♂ 購入	頭									
30. ♀ 購入	頭									
31. ♂ 購入	頭									
32. ♀ 生産	頭			11.0	3.4					
33. ♀ 販売	頭									
34. ♀ 購入	頭									
35. ♀ 販売	頭			2.0	2.0					
36. ♀ 購入	頭			1.0						
37. ♀ 販売	頭			8.0	10.5					

農家所得の推移(予測)



各指標の増加率(予測)



☆生乳生産・販売計画

項目	単位	3年前	前々年	前年	1年目
41. 経1頭当り乳量	kg	17	17	6,149	6,249
42. 総産乳量	t			278.7	294.0
43. 内部仕向率	%/100	0.025	0.025	0.025	0.025
44. うち出荷乳量	t			269.8	288.6
45. うち内部仕向	t			6.9	7.3
46. kg 当り乳価	円	17	17	66.01	66.01
47. kg 当り補給金	円	17	17	7.50	7.56
48. 生乳代金	千円	17	17	17,807	18,920
49. 補給金	円			2,039	2,167
50. 耕地面積	ha			40.0	40.0
51. 耕地・成換頭数	頭	17	17	67.4	67.5



拓農地区 佐藤 敏・保江さんご夫妻
長女 唯ちゃん(3歳)

写真が大好きで、カメラを向けるとついポーズをとってしまおうオチャメな唯ちゃん。「自然なところを撮りたいと思っても、カメラに気がつくとしつかりポーズをとるのよね」と笑って話すお母さんの保江さん。

サインとウルトラマンのスペシャルム光線ポーズ。
お兄ちゃんの宏郁君(六歳)の影響か、とにかくウルトラマンや車が大好きで、見せてくれるオモチャも鉄砲ばかり。お土産に人形を買ってきて「車の方がよかつ



た」と、人形にはてんで興味がないそう。だからお兄ちゃんとは、オモチャの取り合いで時々ケンカも。そこでビシッと決めるのがお父さんの敏さん。「パパは優しい顔だけど怒ると怖い」と宏郁君。趣味や青年部の活動で夜も留守がちで、たまに家に居ると、子供達はパパの取り合いに。やっぱりパパが一番ね。

動物が大好きで、大きな牛の中



に一人居たって平気。体より大きな竹ボーキを上手に扱い、お手伝いをしてくれる唯ちゃん。今年のお遊戯会では、黄色いウサギを踊るといって唯ちゃんは、きつと、とっても可愛いウサギを演じてくれることでしょう。



紅葉狩りと 北海道大観音の旅

中標津町農協熟年会では、十月十五日〜十七日秋期研修会を開催。紅葉狩りと北の京芦別北海道大観音の旅に、会員五十九人が参加し行なわれました。

十五日朝八時農協前を出発、層雲峡、旭川を経由し芦別市へ。

途中での紅葉が素晴らしく車窓から右左と赤、黄、緑色のコントラストを眺め、その素晴らしさに全員声を上げるほど魅了した様子でした。

北の京芦別には午後四時に到着、ホテルに荷物を置き大観音胎内めぐりに出発。

この大観音まではホテルからモノレールで結ばれ、約三分で

熟年会秋期研修会

到着。大観音は高さ八十八メートル、ピルの高さになると二十六階建に相当し、胎内に仏像数百体が安置してある。ここをエレベーターや廻り階段にて、各部屋の仏像参拝をする様になっている。ちなみに大観音、仏像合

わせて約八十億円の総工費がかけられたそうである。

会員皆さんご利益を期待して、沢山のお賽銭をあげていた様です。

参拝後はホテルでショーを見ながら夕食。ショーの中ではカラオケ大会が行なわれ、ホテル泊客の中から十五人が参加。熟年会からも三人が参加し（内山勲、松田ヤエ、安田スギノ）みごと内山さん



カラオケ大会
努力賞の内山さん

が努力賞を獲得しました。

十六日、芦別を後に狩勝峠を経由、車窓から紅葉を眺めながら弟子屈子宝ホテルに到着。二日間、長い距離をバスに揺られたせいか、会員さんは少し疲れ気味の様子でした。

しかし夕食での宴会は熟年会パワーを発揮、カラオケ、踊りと終了時間を三十分延長して、やっとおひらきになりました。

十七日はホテルを九時に出発し、中標津へ全員事故もなく帰ってまいりました。

旅行中は天候にも恵まれ、素晴らしい紅葉を見る事が出来、会員さんにとっては楽しい思い出の旅となりました。

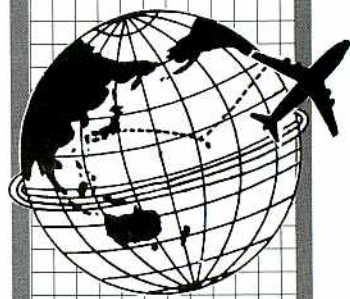


バスの中でも元気いっぱいの会員さん

大観音をバックにご利益をと記念写真

ヨーロッパ酪農事情視察に参加して

理事 上村重光



経営環境の厳しさは日本と 共通するものがある

第二十七回全国酪農協主催、ヨーロッパ酪農事情視察団に参加（八月二十八日～九月十二日）

スイス、ドイツ、デンマーク、オランダ、フランスのEC域内の五カ国を駆け足ではあったが、視察旅行中に見たこと、聞いたことなどを報告します。

最初の国スイス（ジュネーブ州コロボス）ローダース農場。家族構成及び労働力Ⅱ夫婦と息子夫婦他息子の弟計五人。夏期労働者一～二人（時給八百円食事付き）との事。経営年数三十四年（二年前に息子に譲渡）。乳牛Ⅱシンメンタール二十一頭とレッドホルスタイン二頭内、搾乳牛十七頭、初妊牛七頭は山の放牧場へ。他に育成牛二十四頭と、メス仔牛の育成予定六頭との事。オス仔牛は十五日間で販売（食肉）へkgⅡ八～九スイスフラン。一頭およそ三万円くらい。年間総乳量、販売乳量同じ

十万六千kg、一頭平均五千六百～五千八百。パイプライン、バルク方式。牛乳単価キロ百円。乳脂率四・〇%。農地面積Ⅱ耕作地三十ha（十三ha借地）、とうもろこし四ha、大麦八ha、なたね二ha残り牧草地。放牧期間六月四日～十月十五日。利用金、期間中で一頭二万～三万円。建物施設機械Ⅱ住居と牛舎が棟続きに倉庫車庫厩舎、民宿部屋付きで対面して建っていたが間は石畳と下水道完備。耕運機、モーター所有。播種機、収穫機借用。成牛はスタンション牛舎で対面式。飼料Ⅱサイレージ（十一月一



スイス・ローダース農場前、住宅と牛舎がむね続きとなっている

日～四月一日）、乾草、サイレージ三百トン、大麦、小麦（ミネラル、大豆など購入）を自家配合。種付けは人工授精。料金は一回技術料十

精液料で五千八百～九千七百円、二回、三回目有料。他に鶏五十羽豚七頭飼養。民宿をしており、料金一家庭Ⅱ一週間五万五千円。私たちが訪れた日は雨天でしたが、建物の軒が長いので説明を受けてる時は雨よけになりました。窓にはゼラニウムが咲いていて、この場所で主人の説明を聞き、また、奥さん方の手作りのケーキとジュースのもてなしを牛舎内で受けました。主人は将来の夢などを語ってくれましたが、将来に期待できぬ小規模経営は減る。三百六十五日経営留守に出来ないし、休みがないけれど牛が好きだから酪農を続けると言っておられました。宿泊先のインターラーケン（観光地、ここから標高三千mのユングラウヨッホまで登山鉄道が走り、二kmまで牛が放牧されている。）

登山電車に登乗見学したのですが、街中は狭い土地条件の中で小規模の酪農家と住宅地が混在し、一方山側の傾斜地は放牧や採草地として限界まで利用されており、美しい景観と環境を整える事によって、観光や休暇を過ごしにやってくる人々には魅力いっぱいである。スイス農業の果たす役割が食料生産と国土の環境保全、国防の関連で大きく貢献しており、従って酪農家の高地差に依りて、乳牛飼養頭数に対する高地手当が支払われている。(添乗員説明)

二番目にドイツ・バイエルン州デート・ウエルガーシュタイガ牧場を視察。家族と労働力Ⅱ主人四十二歳〇・五(乳業工場で集荷管理者)、奥さん、子供三人、父親の労力二・五人。

経営内容Ⅱ土地二十二ha、酪農用地他三十六ha、農作物(内容不明)、森四ha、借地十四ha。乳牛Ⅱ牛乳生産。クオート(割当制)二百四十トン販売。搾乳牛四十四頭。一頭六千四百〜六千七百平均乳量。ブラウンスイスと米国からのブラウンスイスの交配種(二十年前から改良)、ホルスタイン種と同じ

高率能力、脂肪四・〇%、年間生産乳生産二百七十トン(二百四十トン販売、三十トン飼料用)、乳価六十五円くらい。仔牛三週間くらいで出す場合三百〜三百五十マルク(二万〜三万円)、初妊牛価格(この牧場高い牛ブランド)二十六〜二十七万。

建物Ⅱ五十頭牛舎、給飼場、フリーストール、自然流下式、パラー方式、乾乳牛別棟スタンション。種付け人工授精一頭Ⅱ三十五マルク(三千円)、初産牛は十八ヶ月〜二十ヶ月令。種付け乳牛Ⅱ二十六頭が一回、十八頭が数回、分娩間隔は三百七十日との事でした。飼養方法は冬期間二百日舎飼、夏放牧と青刈り牧草(ロードワゴンでダイレクトカット)給飼。サイレージはバンガー、スタックサイレージが主。視察先ではグラスハーベスター等は見かけなかった。トラクターのフロントにディスクモーター、後ろにロードワゴン、牽引スタイルは合理的だ。ラップサイレージも旅行中何か所かしか見かけなかった。冬期間はサイレージ、乾草、とうもろこし、ウエハ、配合飼料。主人に、日本の牛乳生

産費はどれくらいかと聞かれ答えるところ、その主人は「日本の牧場より生産費は低い。ただ牛舎を四年前に増築投資した。四年間休む暇無しで奥さんは百%農業と家事をこなしている」と語ってくれました。また、夢は家族で休暇をとりました。また、夢は家族で休暇をとりました。また、夢は家族で休暇をとりました。また、夢は家族で休暇をとりました。

翌日はミュンヘン市のバイエルン州農林水産省で講演があり、内容はOEC共通農業改革案に対する州政府の対応、農林再整備事業(バイエルン州)について、ということとミュンヘン市南部の農村再整備事業の実際を見に村を訪ねてみました。

講演内容の一つとし、これまでのヨーロッパ(EU)域内を守るための農業保護政策(関税や農産物価格の均一化)や、農産物の価格支持政策について、とありました。その結果として、保護政策は逆に農産物過剰を招いて大きな税負担(農業予算の膨大化)とみられ、

明年度実施予定の改革案として、

余剰生産の解消と国際競争力を回復するため、生産クオータの削減(生乳は五年間に三%へただし今年は見送り)、十五%の休耕)を条件に補助金支給、支持価格引き下げも検討されている(ガット、米国圧力)。その他、農業所得の確保と農村景観保持、農産物価格による支持から所得直接補助(デカプリング)へ、家族経営の保護、農村環境保持に対する補償や農業予算圧縮、輸出補助金の引き下げ(金額三十六%、数量二十四%引き下げる)他介入在庫圧縮も提案している。改革案に対して、フランス、ドイツの農家は反対しており、農家所得は農産物価格を通して、直接補助は農家を生活保護者にしてしまう。改革は年数をかけて段階的に行うべきである。など意見が出ていた。

次に、ドイツ南部バイエルン州(ポリーング村)と、北部オルスタイン州(オステヒ村)で農村再整備と村おこし運動について、街の景観を見ながら説明を受けました。このテーマは農村の開発、人口流出離農者を出さないことであり、

独立した自治体として村のイメージ



舗装された道路は牛の歩く道でもある
ハイレン州ポニリング村、農村再整備事業での視察地

ジを高める方策を、村人と役人の協力によって計画立案されている。特徴としては、村全体が公園のようには整備されて美しく、中心部にはメイン道路に面して牧場があり、また、文化活動、スポーツクラブも活発に運営されている。村全体の整備には婦人、老人、子供の意見を入れなければならぬ。その上、民宿（改築には補助がある）とし



オークス地区糞尿処理プラント

ての休暇村にもなっており、農家の副収入になるとともに料金が安く利用できる、地域の観光案内所にも登録されている。
デンマークでは乳業工場糞尿処理プラント、デンマーク農業指導センター（D A A C）、牧場を視察しました。

ニールホルク乳業工場オーナー、モーリスハッセン氏（農家出身）、小規模工場、デンマーク消費者ニーズに合う様にと夜間操業、早朝乳製品を消費地へ。したがって、夕方か夜十一時迄に農家より牛乳集荷、牛乳検査は工場独自と国のドクターが検査する。（研究所検査）単価については、脂肪とタン

パク更にミネラル含有率で値段に差があり六十四円位。二十二戸の牧場と契約集荷、乳質乳成分の良いい農家ばかりで、市場は大型チェーンマーケティンク八十カ所、六十五幼稚園、更に病院、養老院などあるため、このミルクは他より高い需要があるそうです。

オークス地区糞尿処理プラントでは、環境法でマニユアの貯蔵量を決められ、九ヶ月保管作物が発芽する前に散布する事が義務づけられた。

そこで農家よりアイデアが出され、二十八戸の組合設立で、政府が補助金一九八八年八月着工、一九八九年二月より稼働。一日処理能力一六〇m³、バイオガス七、〇〇〇m³、〇〇〇m³（六十五、七〇%メタンガス残り炭酸ガス）、三十三%発電利用、六〇%地域暖房に使用、エネルギーはオーデンセ市に売却、処理方法は受入攪拌（糞尿二十八戸だけでは不足のため屠場廃棄物舎）、次のタンクで五〇、五十五℃加熱（雑草種子、雑菌死滅）六時間三十二、三十七℃で二十日間保管、処理後牧場へ液肥として返す。工程中繊維物は別に堆

肥と分離貯蔵、処理場は臭気を出さない。経費は投資三、〇〇〇万クローネ（国一、二〇〇、組合一、八〇〇借金）、一、八〇〇万クローネは売却、電気代、熱エネルギーで支払う。管理人は工場一人、タンクローリー運転手二人。なお、組合のエリア（工場より平均六、七km）をタンクローリー集荷。他にデンマーク九カ所あり、それ以外にも七カ所計画ということで、無限エネルギーのアイデアと感心しました。

次にデンマーク農業指導センター（D A A C）を訪問受講。環境問題糞尿、保管義務、農薬も減らすことが指導されており、農薬は一九八五年を基準に一九九七年までに五〇%削減しなければ、利益に税金をかけるとのことである。

デンマークのチツ素規制は、年間一〇〇kgチツ素相当量を一家畜単位とし、搾乳牛の場合にはha当たり二・三頭が限度で、近隣の農家と調整しても良いことになっている。乳牛は生まれてから廃用牛になる迄、耳にタック（タックには数字で記号化）を付けられ、あらゆるデータ管理をされている。デンマークの農業の概況は、耕

地面積二十八万haに対して草地二十一万haであり、穀物生産（自給濃厚飼料）の割合が高い。

乳用仔牛は、生後一週間でトランスボータ・ミルクを自動給与し、ミルクは六週間でやめる。牛舎は乳牛、育成、肉用牛舎全てが糞尿自然流下式で（ドイツ、オランダの牧場も同じ）、フリーストール方式、労力軽減、さらに牛体の汚れ

がなくハエや畜舎周囲にはカラスなどもいなくて、舎内も糞尿の臭気はほとんどなかった。配合飼料、自給、自家配、ビート、パルプ、ペレット購入kg二十八円。天気が悪いので、乾草不足分は麦乾のアンモニア処理を育成肉用牛に与えていた。自前で建てたバンガーサイロ、倉庫兼用、農機具類は中古を安くたたいて購入したので見てくれと言われ、農作業車庫を見せてもらうと、とてもきれいに整備整頓されていました。

自家産の穀物は全部自家消費、サイレージは大麦、グラス、ピートトツプのうち二種類を組み合わせて冬季はピート、夏季はピートパルプと糖密を与えている。配合飼料は、搾乳用には購入したものを

乳量に依じて8kgまで給与し、育成用には自家配としている。搾乳中は年中舎飼で、乾乳牛、育成牛は夏季放牧（5/11、11/1）、通年サイレージ給与で濃厚飼料は自動給飼機、搾乳は八頭×二列のヘリングボーンパーラー。オルセン氏は六年間休日無しと話してしま

した。オランダでは、東フレボラント干拓記念館を訪問しました。説明では、現在のオランダの国土のうち約四分の一は干拓によって造られた土地であり、面積一六五、〇〇〇ha（農地七三・四三%）は大きな運河を中心として水路、排水溝によって十〜五十haに区画されている。このような低地帯でありながら、降雨量に応じて各地に配置されたポンプステーションが排水稼動すると、農作業の防げに出来ない（土壌は砂質）、水害は考えられないようである。こうした大事業（海面下土地）をやりとげた人間の偉大さに感服した次第であります。

次に、国立実験農場を視察しました。糞尿処理について講演があり、オランダでも家畜の糞尿処理

が重要な問題とされているらしく、アンモニアの大气汚染や水質汚染について説明を受けました。この農場はフリーストール（自然流下式）タイプで、実際スラリストアーにはビニールテントで蓋をし、アンモニア処理の化学実験をしていました。さらに、干拓地は肥沃で肥料の要求率が低いことや、畑作、園芸農家では雑草種子が混入しているのが使いたがらないそうです。

東フレボラント干拓地の酪農家を訪問しました。フェルホーク牧場、労働力、主人（六十三歳）息子（三十四歳）の二人、週三日雇用一人。乳牛・ホルスタイン、フリージャン、搾乳牛一〇〇頭、乾乳牛二十五頭、育成未経牛八十頭、オス仔牛は生後二週間で出荷している（平均二四、〇〇〇円）。分娩時期になると（八、〇〇〇円まで）下落する。メスは全頭飼育し、搾乳牛は三産で淘汰し、淘汰牛の価格は枝肉の歩留りで決まる。（一頭平均一〇〇、〇〇〇円）、乳量七三〇トン（生産割当七三〇トン）、一頭平均七、三〇〇kg、脂肪率四・五%、タンパク三・五五%、乳価

は〇・ハギルター（六十円）で季節・乳質（脂肪蛋白）で変わる。細菌一八、〇〇〇、体細胞二十万。農用地六十ha（国からの借地）と放牧地二十四ha、コーン十六ha、残りサイレージ用草地。草は成長が早く反収が良いということでイングリッシュグラスを作っている。草地は年六回刈っており、草地更新のためコーンとジャガ芋のローテーションを組んでいる。所有機械はトラクター四台、ワゴン三台、ロードワゴン三台、モーター三台、プラウ、播種機、肥料散布機、スラリタンカー（十トン）その他テツタを改造して飼料を掃くのに使用していた。飼養管理、フリーストール牛舎（自然流下式）。二十四頭パーラーだがクォータ制が始まって以来、十六頭分しか使

用していない。搾乳は朝六時、夕方四時の二回。夏季（五月中旬〜十月中旬）は放牧。購入濃厚飼料は年間一〇〇トン購入。種付けは乳価の高い時期に分娩するようにローテーションしており、生後十五〜十六ヶ月で人工授精している。農家戸数八万戸（酪農二万戸）乳牛（成牛）の飼養頭数は七十六

万三千頭（デンマーク赤牛十三%、ホルスタイン六十%、ジャージー十七%、その他十%）。生乳生産量は四百五十四万三千トン。一頭当りの平均乳量は六千kg、また農産物の輸出は総生産額の三分の二に達し、経営規模の大型化が進んでいる。しかし今年は異常気象で、春から夏にかけて猛暑と干ばつで、牧草は一部枯れてしまったり、その後八月に入り雨続きであり、穀物は前年より五〇%位減収稼だろうと言っていました。

オルセン牧場を訪問。ユトランド地方オルセン近郊。家族と労働力主人エスキルド・グラボウ、オルセン氏。妻、子供一人。経営年数十五年。農業専従二人、雇用人一人、日本人実習生（女性）一人。オルセン氏は、一九七七年に農場の半分を相続し、一九七九年に牛舎を新築。一九八九年に農場の全部を相続し、一九九一年に農場をひとつ買い取った。牛の種類は、デンマーク赤牛九十%、ホルスタイン、フリージャン十%。搾乳牛九十頭、乾乳牛十頭、初妊牛四十五頭。オス仔牛処理と方法は約一年で売却。年間総乳量六百七十トン（脂肪四・



デンマーク・オルセン牧場、ほとんどフリーストールで飼われている

草地サイレージ用十ha、放牧地十八ha、五十頭の育成牛用、小麦八ha、草十四ha、大麦二十九ha、森林十ha（建築資材に活用）、施設地一・五ha、借地三十六ha。

スケジュール最後の訪問国フランスへ。オランダのスキポール空港へ向かい、空港の前に立っている海面下四十mを示す記念ポールを見た時、あらためて干拓地の実感を知り驚きました。

フランスではジェットロパリセンターの担当官による講演がありました。農民の農業アピールパワーデモ（百万人）行進があった。フランス農民のプライドは高く他の国も食わせているし、フランスの国力は農業と軍事である。農政は農業を弱めてはいけない。国民は農村と緑に親しみとあこがれを持ち農業を支持している。また、マスコミも農業には好意的である。パリの労働者の十%位は移民で、社会問題もある。との内容でした。各国ともに牛乳は乳質より乳成分の話が多かった。脂肪、蛋白、そしてミネラル類の含有の話をして、乳業メーカーもミネラル含有の多い飼料を進めていた。牛乳

パック表示にも脂肪、蛋白、カロリー、炭水化物、カルシウム、リン、ビタミンA・B₁・B₂・D量が記されており乳製品の品数が多い。オス仔牛は概ね（値段）一万五千円〜二万五千円、初妊牛は二十万円、廃用牛は十万円以内である。今回の視察で各国それぞれ農業・農村を回ってみて、代表的な牛に出会い飼料作物の種類、生育状況、そして酪農施設や農機具、更に農村風景、農家の暮らし振りまで視察する事が出来ました。一方、EC各国共通の農業問題として、農産物の余剰畜産物の糞尿公害など環境問題があり、我々生産者の立場からすると、経営環境の厳しさは日本と共通のものがあると考えられます。私は初めてのヨーロッパ視察体験で、ドイツ南バイエルンの美しく豊かな農村風景、オランダでは運河より低い農地、緑の大地に赤白牛、村全体が美しい公園のように整備され、その集落で牧場経営がされているところに歴史（酪農）のながさを感じることがありました。

農協の

財務状況

九月末における農協の財務状況についてお知らせします。

◎貸付金 組勘貸越残の減少と農林漁業資金の約定償還による減少があります。今年創設された生乳生産基盤強化対策資金の貸出しと生産向上資金、自動車ローンなどの長期貸付金、近代化資金で増加しております。貸付金全体では、五千八百万円増加となっております。

◎クミカン 家畜価格が依然として低迷しておりますが、上期の生乳生産が大巾に延びたことにより借方残、貸方残とも好転し、貸越残については、前年より一億二千三百万円減少しております。

◎貯金 昨年は一億五千八百万円減少しましたが、本年は組勘の預り残二億四千七百万円を含めて五億一千五百万円の増加となり、目標達成にむけて努力してまいりましたので、今後とも組合員各位のご協力をお願い致します。

◎販売事業 前年同期に比して、三億三千九百万円の取扱高増となっております。上期、牛乳が搾れたことで乳代で、三億八千万円増加しておりますが、家畜の販売では頭数の取扱いは増えているものの、価格の低迷で販売高は四千二百万円減少しております。

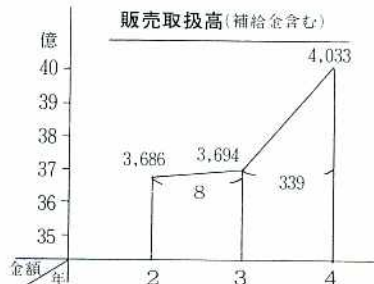
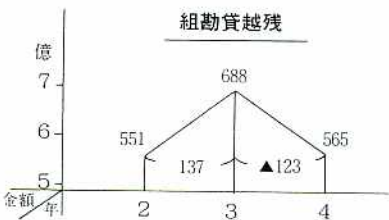
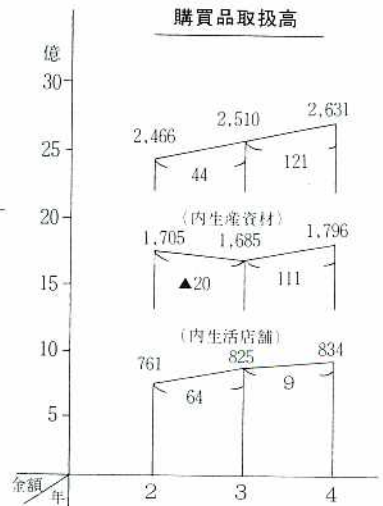
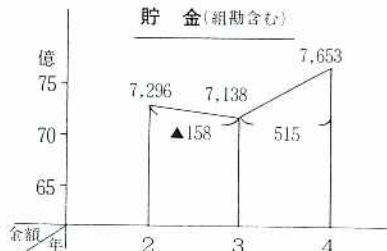
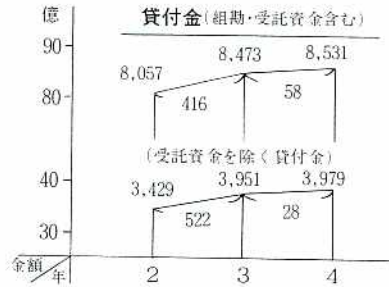
◎購買事業 生産資材の取扱いは高ですが、農機具代で八千万円、配合飼料で四千万円程度増加しているのが主なものです。

生活店舗については、平成三年度において売り上げ十六億円の大台を突破し、この規模の店舗としてはトップクラスの成績でありますが、本年もさらに売り上げを伸ばしております。

今後とも組合員皆様のご理解とご協力をお願いし、財務概況の報告といたします。

事業概況

各年度9月末現在 (単位百万円)



都市化の中で、 生きのこる酪農経営

理事 鈴木 祥 幹



堺市畜産農協、豊永参事から説明を受ける

役員の府県視察研修は山本雪信氏を団長に、九月二十一日中標津を出発し、大阪、堺市、半田市農協と回ってきましたので概況を報告します。

堺酪農団地を目指して、大阪ホクレン支所・鶴野氏のご案内にてホテルを出発し、ラッシュアワーの真只中、乗り継ぎしながら二時間強がかり目的地に到着した。着いた所は、山あり谷あり坂の多い稜線に沿った、多少平坦な場所に牛舎施設を造った、という感じのする総組合数四十人で二十三戸でオープンし、現在二十戸が酪農経営をしています。この団地の出来

た経過は、臨海工場地帯と千石ニュータウンの両方が出現し、堺・大阪の幹線と都市化の波の影響で団地化され、親戚関係者が多いとのことでした。総頭数千五十頭で数年変化がなく、搾乳牛で最大七十頭、最少で三十五頭の範囲で営農されています。後継者もおり、この面では問題がないとのことでした。

この団地の特徴は二つあります。一つは輸入粗飼料利用と粕、他方は糞尿処理です。

まず飼料については、組合が餌を作り各酪農家まで配送し、一戸当たりの量の変化は事前にFAXにて知らせる方式でした。この餌作りですが、近郊の粕をベースとしてピートバルブ、トウモロコシ大麦、フスマ、綿実、グルテン等を混合し、kg当たり二十四〜二十五円で供給されています。現在各戸では、平均十八kg位給与しています。配送は、職員五人と外注

三人で各戸口まで、それはみごとに協同の精神ではなく、協同の力を見せていただきました。乾燥、ミネラル類は個人対応で、アルファアルファ・バユードグラスを四十



堺酪農団地の糞処理ハウス

二〜四十三円で購入し給与しています。この乾草給与、粗飼料給与率が糞尿を増加させた元であるとのことでした。

次に、この団地に移った最大の原因である糞尿処理について、概況として移った当初は糞尿で一頭

平均三十五kg位であったが、最近では四十五kgまで増えてしまい、新たに三億の投資をして施設の充実を計っているが、まだ増えようである。尿処理は各戸より出る尿と、洗い水などを一カ所に集め、抜気、蒸発装置で強制乾燥させている。口ではなかなか説明しにくい装置でした。一日平均処理量は十一ト位で、夏場最大二十五トまでの能力がある。

糞については処理場まで各戸が持ち込み、水分七〇%を目途に乾燥糞と混合調整しハウスの中に入れ、ハウスの中でロータリーハロー様の機械で攪拌しながら、少しずつ乾燥糞の出来上がりとなる。一部は製品として販売もしております。乾燥させるハウスは当初九基、新規で三基フル稼働でしたが、新規投資については一戸当たり七十万、百数十万円の負担で、総投資で七億、八億にもなったが、酪農家は心よく出資して下さるの事でした。しかし、毎年三百万円位の赤字だそうです。

乳牛は斡旋事業で年間六百、六百五十頭導入する。ここでは乳酪

で二十二、二十三万、乳牛導入が三十二、二十八万円の間に、その差額金約十五万円の追加金が必要。乳価は百六円九十銭でした。なお次の視察地である半田市農協も、糞尿処理では頭のいたい問題の様でした。

愛知県半田市にあります半田市酪農組合を訪ね、組合が運営している配合飼料工場、そして近郊の酪農家（乳肉複合経営）を視察し、最後にみどり牛乳農業協同組合等



半田酪農協飼料配合所



半田市・榊原牧場200頭フリーストール

々で研修させていただきました。

最初に訪れたところは、半田酪農飼料配合所でありました。転作促進特別対策事業として飼料共同配合所が設置され、昭和五十一年より事業を開始し、現在参加戸数五十二戸で日量六十ト製造され配合

の種類は四種で、一号が搾乳牛用で四十五ト、二号が高泌乳用、三号が肥育用、四号が育成牛用でした。この地域は衣浦港、名古屋港があり輸入穀物や草穀類が荷揚げされ、粕類は三社のビール工場があつて有利な条件で入手している。飼料は三ヶ月毎の入札制です。こ

の配合飼料工場も、毎日各酪農家のミキシング場まで配達されます。各酪農家は配送された飼料にミネラル・ビタミンなどを加え、TMRにして給与しております。なお、この地域は乳肉複合経営であり、初産牛に和牛を望んでる地区でもありますし、半田市に着いた時、今朝中標津から牛が届きました」との報告もありました。酪農家一戸平均搾乳量が三百八十トで、日本の規模を誇っています。所得率は三〇%を越えているとのことでしたが、肉牛は免税ですから、本当に儲かっているなあという感じがしました。こういう地域には後継者問題はないとのこと。

みどり牛乳農業協同組合内に入り、最初に案内された会議室の壁一面に、昨年と今年の乳量番付表が張っており、都市化された街の中で複合経営を行なうに当たっての競争意識とでも言うのか、アクなキメリット追求がシビアに表示されており、同じ牛を飼う人間の、生産者としての意識の差異をかいまみた様に思う。よく働きよく遊びます。また勉強もしています。

「組勤」の愛称で皆さんにご利用頂いております、組合員勘定制度が一層使いやすくなり、「クミカン制度」として内容が一部変わります。

平成5年

1月1日から



組合員勘定 制度が一部 変わります!

て自動的に処理されます。

★例えば経営費の労賃を支払う場合には、いままでどおり窓口にお越しください。

○公共料金などの自動振替え口座として、為替振込の受取り口座としてご利用できます。

電気料金、電話料金、NHKの受信料の自動振替えと口座として、為替払込金の受取り口座としてご利用になれます。

○普通貯金の残高が不足したときは自動的に融資されます。

普通貯金の残高が不足したときは、不足金を自動的に融資(貸越)します。

ご注意

☆貸越については営農計画書に基づき、限度額を設定することになっております。

☆貸越金があるときに入金がありますと、自動的に貸越金の返済に当てられます。

○限度管理が細分化され、計画的な支出を支援いたします。

クミカン制度は、組合員の作成した営農計画書に基づき営農と、生活の実践における資金の決済を

行ないませんが、今までは月別の供給限度のみを管理していましたが、これからは供給限度管理、貸越極度の管理、家計費現金供給限度の管理に細分化して、計画的な支出を支援いたします。

ご注意

☆供給限度とは、営農計画書に基づく年間の支出(経営費及び家計費)累計のことです。

☆貸越極度とは、営農計画書に基づき販売代金など収入金額と、経営費など支出金額との差額が一番大きくなるときの貸し越しの金額のことです。

☆家計費現金供給限度とは、営農計画書に基づく年間の家計費の現金供給累計のことです。

☆限度管理の考え方は次のとおりです。

収入金額Ⅳ供給限度額Ⅴ貸越極度額。

収入金額Ⅳ供給限度額Ⅴ家計費現金供給額

○営農年度末の精算方法は、不足金は従来と同じですが、余裕金の精算処理は行ないません。

営農計画書に基づき取引きを実

○取引の決済を普通貯金で行ないます。

今まで、えさ代金の引き落としなど各種経営費、家計費などの代金引き落としは組勤で行なわれていましたが、これからは普通貯金で行なうことになりました。

○キャッシュカードが使えます。

現金の入金・出金及び残高確認

はいちいち窓口においでいただくなくても、これからはキャッシュカードで取扱いが出来ます。

ご注意

☆入金は全国の農協に限ります。

☆出金は全国の農協・他の金融機関どこでも取扱いが出来ます。

☆キャッシュカードでの入金とは「その他収入」、出金は「家計費」とし

た他収入」、出金は「家計費」とし

施した結果、過不足金が発生した場合は、次年度の取引と区別するため精算することが原則ですが、

余裕金については自動的に次年度繰越をしますので、余裕金の精算処理は行ないません。

ご注意

☆単年度不足金は従来と同じく精算期間に精算します。

○利息の精算は営農年度月末の第三日曜日に行ないます。

今までは利息の精算は営農年度末日に実施していましたが、これからは営農年度月末の第三日曜日に行ないます。

○クミカン制度にかかわるため、書類の提出をお願いします。

「組勘」から「クミカン」に制度が変わりますが、今までと同じように取引していただくために、組合員勘定取引約定書などの契約書類が一部変更となりますので、後日書類の提出が必要となります。

なお、必要書類は後日作成いたしますので、宜しくお願い致します。

○制度変更にともない、毎月送付しております営農管理報告票の内

容が一部変わります。

○取引残高が収支差額に変更になります。

○決済残高の内容が変わります。

○未決済残高という表現がありません。

ご注意

☆収支差額とは今までの取引残高のことです。

☆決済残高とは今まではサイト付き取引以外の取引をいっていましたが、これからは貯金残高のことです。

☆決済残高がマイナスの場合は普通貯金の残高が不足し、自動的に融資した金額のことです。

☆未決済残高とは貯金口座よりまだ引き落とされていない残高のことです。

乳用経産牛の和牛受精卵の活用

乳肉複合経営のひとつとして農協では、黒毛和種の供卵牛を飼養し、その卵を希望組合員への移植を行なっております。これによる仔牛は、すでに約十五頭産まれております。今年度から、乳用経産牛への肉専用種の受精卵移植を実施しようお知らせ致します。

和牛受精卵在庫表

母 (系統)	父 (系統)	価格 円	在庫 数本
なみはる (但馬)	紋次郎 (但馬)	50,000	1
第6はるなみ (但馬)	中包 (但馬)	38,000	7
はやみず	寿高 (気高)	格安	3
ひでひめ (但馬×気高)	北国7の8 (糸桜×気高)	38,000	4
第6はるなみ (但馬)	北国7の8 (糸桜×気高)	38,000	10

期待される中標津乳牛

中標津乳牛改良同志会・府県乳牛消流地視察研修報告

桜井 幸一

中標津乳牛改良同志会府県乳牛消流地の調査と酪農家視察をかねて、九月二十八日～四日間会員、農協職員七人により千葉県長生郡、安房郡を視察しましたので報告します。

今回は中標津町農協と長い間、乳牛購買取引が続いている安房中央、長生両酪農協と両組合員の酪農家十戸を視察致しました。

長生酪農協は、酪農家專業組合員五十三人で組織され、平均耕地面積は約3ha、平均乳量六、五〇〇kg、乳価九十五～九十六円（九十円十奨励金）が酪農家の平均ですが、牛乳集荷、市乳工場は全て個人業が運営し、飼料はほとんどが購入飼料にたより、イタリアン、スーダン、コーン、ソルゴーは作付していますが面積は少なく、堆肥は畑に還元しますが、耕作面積が少ないため過剰堆肥は小数であるが乾燥施設によって処理し、野菜農家などにkg/十五円で販売

をしている状況です。

離農地を購入したいが、宅地化が進み地価高騰が続く酪農経営条件に合わず、購入困難な時期にきている様です。また、後継者不足は深刻な問題で、組合員の半数が後継者がいない、または、いても継がないなど悩みを抱えております。導入牛の評価は足腰の強さ、能力の面でも着実に向上し、環境の違いでも活躍しています。今後組合員の要望があれば、積極的に中標津より導入したい考えを副組合員より話されました。

長生酪農協酪農家四件を視察、藍、阿井、牧野、木島の各牧場、スタンション方式、昼夜パドック、TRM方式等飼養型態は様々です

が、平均乳量七、〇〇〇kg、七、五〇〇kgと格差は少なく、導入牛の能力を十分に引出していると思えます。また、導入牛の中には

県B&Wシヨウ二位と占めるなど、上位入賞の実績を持つ牛もあり、ここに中標津ホルスタインあり”と自信を持てると思えます。導入先は中標津町農協組合員全地区より購買されており、中標津乳牛のレベルの高さと改良の努力の成果と言えるかもしれません。

この地区数戸の酪農家は労働力、育成施設のスペース不足などを考え、育成牛（六ヶ月以上）は上士幌に預託し、分娩二ヶ月程前に引

取る方法を取っています。料金は一日五〇〇円（夏、冬同じ）他に人工授精料金、共済掛金は別途となっています。

安房中央酪農農業協同組合は、千葉県南部地方八酪農協が、平成五年五月一日を期日に合併が進められています。合併が実現すれば府県では最大規模の酪農協となりますが、難かしい問題を各農協が抱えているためか、今大きく揺れ



92 9 29
中標津から100%導入の角田牧場

ています。

組合員二十五人、長生酪農協と共通する問題点は、五〇%位が若い後継者が少なく、数年後には、何らかの決断を迫られている組合員が多く、また、宅地化が進み環境問題がクローズアップ、行政機関まで持ち込まれ、今、府県酪農状況は大きな転換期を迎えようとしています。

一件当りの視察時間が多少不足でしたが、七戸の牧場を視察しました。

一件目の庄司牧場は安房中央酪農協の組合員ではありませんが、デーリイマン誌九月号に掲載された牧場で、四月に牛舎新築、平均乳量八、〇〇〇kg、F四・四%、規模拡大でなく個体能力の向上と「一・二年の内に一〇、〇〇〇kg牛群に達成させたい」目標を持っている。また、自家生産でEX牛を作出したい夢を持ち、平成七年度に開催される全共に向けて、全共対策



9月号デーリイマン誌に「酪農家の生活」に掲載されたという庄司牧場

補助一〇〇万円、自己資金で別海町・山田牧場より、ライプリー・チユンキー・エースを購入(一五十万円)、全共に向けて準備中のバイタリティー溢れる主人です。

全共対策補助対象は、今年度迄が未經産まで対象となるが、平成七年度当初迄の様です。他に笹子、

地田、笹子則男、小幡、佐久間、角田の各牧場を視察。中でも池田牧場については、導入は一切せず自家生産によって改良を進め、現在三十頭常時搾乳一〇、〇〇〇kg

代八・九頭、一一、〇〇〇kg三頭、平均乳量九、〇〇〇kg、平均体審得点八十二点と牛群全体申し分のない状態で、今年は平均一〇、〇〇〇kgを超す自信を持っています。

フリーストール、機械など合せ一、三〇〇万円で新築、導入しない理由は病気が心配だそうです。また、佐久間、角田両牧場については、全頭中標津よりの導入牛で、平均乳量九、〇〇〇kgと高く、中標津に対する期待は大きく、今後も導入は全て中標津を希望し、私達も期待に添える様、改めて努力する決意を致しました。

視察終了後、懇談会が開催された。役場、農協関係者、理事、獣医師、酪農家によって北海道酪農の現状、体細胞の指導と規制、販売牛に対する考え方など様々な意見が交換され有意義な場となり、特に佐々間理事より中標津町農協婦人の千葉県視察の提案があるなど、



懇談会では中標津農協婦人の千葉県視察の提案がありました。

同じ酪農家として互いの利益を優先させ、広い視野において今後益々情報交換する事を願って盛会の内に終了しました。

最後に今回の視察研修実施に当り、農協を始め皆さん方のご協力によりまして、無事終える事が出来ました。感謝申し上げます。

秋 山 久 雄

同志会での千葉県への視察は二度目ですが、写真や報告でしか知らなかったが、自分自身参加して府県の農協協いで購買牛の向き、不向きがある事がわかりました。今後この経験を生かし、個体販売

にも力を入れていきたいと思えます。今回一緒に参加させて頂き、貴重な体験をしました事に皆様に感謝します。次回の府県視察の実施には会員皆様の協力をお願いします。

府県乳牛消流地 視察に参加して



山 田 昇

中標津の乳牛が、千葉県で活躍している事を大変良く知りました。農業全体の問題である後継者について、中標津より深刻である事、また、糞尿処理については、施設に補助金が対象になる事を知り、

どの様に糞尿処理をするかによって、本州の酪農家の規模拡大が決定するのではないのでしょうか。また、今回府県消流で見えた事を、今後自分の経営に役立てていきたいと思えます。

川 村 尊 之

今回、千葉県酪農家に視察に参加させてもらい、写真では観た事がありました。実際に自分自身の目で観て、乳牛には大変な場所

引き出し良く搾り込んでいると思えました。今後搾れる牛、信用出来る牛を府県に送り出さなくてはいけないと痛感しました。最後に大変良い経験をさせて頂きありがとうございました。

福 嶋 信 博

広大な草地で育った中標津の乳牛が府県において、どの様な管理により活躍しているのか、以前より深く興味を持っていたため、今回この様な機会に恵まれた事を大変うれしく思っています。

しみがありません、牛好きに年齢も地域差もなく、自分自身でも反省点、目標を明確に出来た大変有意義な研修でありました。

十数件の酪農家を見学し、夜には親睦会といった、大変充実したものでした。特にこの親睦会では、組合長をはじめ、理事、関係者の方々、酪農家の皆さんと幅広い視野において交流が出来、私としても今後大きく役立てさせて頂けると確信しております。

最後に北海道中標津の乳牛が大変活躍し、喜ばれている様なので自分としても、今後共初心を忘れず(子供の頃の様な真っ白な気持ち)真剣に自分の家でも楽しめ、府県に移動しても喜ばれ、自分の理想に近い乳牛と府県農家が求める「牛づくりに、日夜努力して行きたい」と思っています。

今回の研修で特に強く思った事は、牛飼いは日本各地、牛をつくる楽しみ、見る楽しみ、飼う楽



理事会

の経過

第九回理事会

開催月日 十月十三日

開催場所 農協中会議室

〈議案〉

- 一、各種資金の借入申込について。
 - 二、自作農維持資金借入申込に係る農協資金の条件緩和について。
 - 三、平成五年度営農計画樹立について。
 - 四、地域畜産活性化総合対策事業実施について。
 - 五、団体営草地開発整備事業の変更について。
- 全議案原案通り決定しました。
- #### 〈協議事項〉
- 一、新クミカン取引の貸越限度管理について。
 - 二、地区別懇談会の開催について。
 - 三、根室管内農業賞候補者の推薦について。
 - 四、クミカン取引中間協議の状況について。

五、酪農畜産政策要求の積み上げについて。

〈報告事項〉

- 一、生乳生産状況について。
- 二、澱原馬鈴しょの出荷契約（第一次）と澱粉工場の操業状況について。
- 三、畑作三品の政府価格決定について。
- 四、平成五年度の新採用職員について。
- 五、自治監査の日程について。
- 六、組織整備の方向とその実行方策に対する根室地区としての意見集約について。
- 七、役員研修報告について。



毎秋、恒例となっております地区別懇談会を、十月二十日から二十三日にかけて開催いたしました。今年も、牧草の収穫期、馬鈴しょの掘取期と雨の日が多く農作業が大変遅れたこともあって、出席された組合員は七地区で七十一人にとどまりました。激動する酪農情勢の厳しさの中、組合長から組合員皆様の付託にこたえ、平成四年度の取り組で対応して来た事項について挨拶の中で報告したあと、議題に基づき農協事業の概況と、生乳計画生産の経過と、今後の動向を主とした情勢報告、畑作三品の価格決定、澱粉工場の操業状況、生産資材の情勢などについてそれぞれ報告いたしました。



俣落地区での懇談会

生乳の計画生産については、道段階の基本方針は打ち出されておりますが、具体策については、先行行なわれた下期の生産意向調査の結果まちの形であり、出席された方々からは、春の意向調査の範囲内にとどまって来ればという淡い期待と、オーバーした場合の対応に心の準備をしておきたいといった不安な気持ちの意見が多く出されていきました。

家畜個体価格の低迷、生乳の計画生産と、いずれにしても下期の厳しさに気持ちを引き締めて行かなければという意気込みが感じられる懇談会でもありました。

今回は、全体的にあまり多くのご意見はありませんでしたが、懇談会の経過について次回の理事会に報告し、今後の運営に反映されることとなります。建設的なご意見、ご提案ありがとうございました。



生乳生産 下期意向調査

下期見込みで
前年実績対比108.8%増

平成4年度生乳計画の全道目標数量は、生乳生産意向調査の再点結果にもとづき、三百三十二万八千三百二十二ℓと設定された。(前年度実績対比一〇五・七%)
これに対し四ヶ月の累計実績は、前年度同期実績対比一〇七・五%、同計画対比一〇一・五%と計画を上回るペースで推移、また全国の生産状況に於いても同期前年度実績対比一〇四・一%となっており、これらは販売頭数の減少による滞留に伴う生産意欲の拡大、濃厚飼料価格の低下によるものもあり、生産は北海道を中心に(酪農主産地)伸びている現状にあります。

生乳生産意向調査集計表 (中標津町農協)

調査戸数263戸、平成4年度の生乳生産の見込み数量

区分	4~9	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年実績対比
平成4年度計画	44,196.0	7,461.0	7,230.0	7,090.0	6,887.0	6,524.0	6,733.0	86,121.0t	107.2%
生産者見込み数量	44,996.9	7,355.2	7,267.2	7,174.6	7,012.4	6,617.2	7,037.4	87,460.9t	108.8%
農協見込み数量	44,996.9	7,355.2	7,267.2	7,174.6	7,012.4	6,617.2	7,037.4	87,460.9t	108.8%

* 4年度計画は、地区から配分を受けた目標数量。生産者見込みは、生産者の積み上げ数量。農協見込みは、農協での見込み数量。

総合情報誌

地上

定価494円(税込み)

“いま”

“役立つ”

上質な情報を
届けています。



農協や農業の抱えている課題を追求

快適な地域づくりを活発に

地域住民・経営者の関心に応える

お申し込みはJAへ

暮らしの

知恵袋



北根室地区農業改良普及所

十一月になると、そろそろ正月用のいずしの準備を始める人も多いと思います。いずしはその家で作り方が異なり、冬の保存食として母から子へ受け継がれてきました。

少し古い話ですが、昭和三十六年十一月二日、秋田県下のある農家で、お通夜の席で食べたさんまのいずしで、十六人が中毒症を発生し、十二人が死亡するという集団中毒が起きました。これはボツリヌス菌という、猛毒の菌が、芽胞という熱や消毒薬に強い形になって混入して起きた、細菌性の食

中毒と考えられています。

このボツリヌス菌というのは、人間を呼吸まひに陥らせるおそろしいバイ菌です。昭和二十六年に北海道の岩内町の郊外で初めて食中毒が起きて、この時ボツリヌス菌の存在がはじめて明らかにになりました。

ボツリヌス菌は北緯三十八度以北の海岸や、湖のほとりの土中に存在しており、ヨーロッパでも自家製のソーセージなどで使用する腸のバイ菌が原因となり、食中毒が起きています。

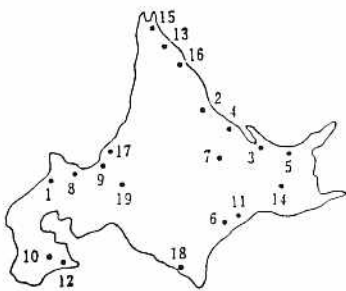
このボツリヌス菌は、食品が空

ボツリヌス菌食中毒例

事例	発生年月	発生場所	原因食品	摂食者数	患者数	死者数	致命率(%)	菌型
1	1951. 5	北海道岩内町	ニシンいずし	24	14	4	28.5	E
2	1956. 8	山形県高畑町	サバ水煮缶詰	3	3	3	100.0	E
3	1961.11	秋田県南外村	サンマイずし	16	16	12	75.0	E
4	1969. 8	宮崎市	輸入キャビア	65	21	3	14.3	B
5	1973. 7	滋賀県マキノ町	ハスずし	3	3	2	66.7	E

気からさえぎられて酸素の欠乏状態になると増殖を始めます。菌自体は熱に強いのですが、菌のつくった毒素は熱に弱く、すぐこわれますので、食前に火を通すと食中毒の心配はありません。

しかし、いずしですと火を通す



北海道におけるボツリヌスE型中毒発生地



ことはちよつと無理です。バイ菌は、いずしに使う野菜や魚の腸の内容物などを介して入ってきますので、ニンジンやキャベツをよく洗うこと、魚は充分水洗して、酢や塩でしっかりしめることが一番の子防策です。



伯爵にチーズオンポテト、売れ行きは上々です

売れて大忙しの紅葉まつり

農協青年部畑作部会では10月4日、養老牛温泉紅葉まつりに馬鈴しょ「伯爵」の販売PRに参加。

あいにく小雨の降る天候でしたが、例年参加している事もあり地元での評価は高く、用意した80コンテナと10kg入りダンボール100ケースをほぼ完売。また、じゃがいもつかみどりや、お楽しみ抽選会も行ない、まつりムードを盛り上げました。



忙しいけどうれしい悲鳴ヨー

フ オ ト ア ル ド ム

育成牧場からの里帰り

6月から約4ヶ月間、広々とした開陽台の育成牧場で放牧されていた乳牛、約1,000頭の下牧が、10月13日、14日行なわれました。

朝早くパドックに集められた牛は、係員にネック番号をチェックされ、体重測定を行ない畜主の出迎えたトラックにのせられた。



パドックに集められた里帰りを待つ牛たち



降りたがらない牛にも困ったものです

中には住み慣れた牧場を離れるのが寂しいのか、なかなかトラックに乗らない牛もいて、畜主を困らせる一幕もありましたが、全頭無事に家路へと向かった様です。



ひとつひとつ大事にコスモスの種とりをしました

美しく 可憐に 咲き誇る コスモス

コスモス満開祭開催される

中標津空港前コスモス広場でのコスモス満開祭が、11月5日開催されました。

延期された当日も雨模様でしたが、小中学生コーラス部、女声コールによる“コスモスの歌”に合わせ、道路にそって美しく可憐に咲き誇っているコスモスも、風にゆれていました。



実習生交流会のんびりと 釣りを楽しむ

10月23日、長期実習生による交流会が行なわれました。

午前9時半に農協を出発し、は



浜辺で食べる魚、焼肉は最高!



大漁、大漁、1度に3匹も釣れちゃった

じめに標津町のサーモンパークを見学したあと、本日のメインである野付へと向かいました。

それぞれが海にさおをたてて待つこと10分。昼食は自分たちの釣った魚で三平汁を…という計画でした。実習生達はそれぞれ大漁(?)で、三平汁もおいしく出来、午後からは天気も良くなったので、のどかな1日の交流会となりました。きっと実習生達も、のんびりと過ごせたのでは…。

皆様ご協力ありがとうございました

目標額を達成

十月十五日、十六日組合員各戸を訪問し、一日皆貯金にご協力いただきました。

今年は全体目標一億円に対し、実績金額一億八百万円の成果を上げる事が出来ました。

農業情勢の厳しい中、これも組合員皆様によるご協力のたまものと深くお礼申し上げます。

なお、抽選会は近日中に行ないますので、お楽しみにお待ちしております。

10月の組合日誌

- 1日 第4回営農委員会
- 13日 阿寒町乳検視察来組
- 13日 第9回理事会
- 15日～16日 1日皆貯金
- 21日～23日 地区別懇談会
- 21日 小集団リーダー会議
- 26日～30日 定例自治監査



オチビさんもお金数えに協力してくれました

農協文庫の紹介



小林カツ代の漬けものとおき

食べたいときに食べたい分だけさっと漬ける。現代人の舌にぴったりのカツ代風漬けものの数々を紹介する。

特別普及運動対象図書。

ヨーロッパの有機農業

付・有機農産物主要基準

ヨーロッパにおける有機農産物の生産、販売、流通の歴史と現状、さらに、有機農産物に関するE.Cの統一基準制定をめぐる動きなどを紹介。

編集後記

十一月を迎え朝、晩の冷え込みが一段と厳しくなりました。馬鈴しよやビートの掘り取り作業は、準備に進んでいますか？そろそろ作業も終盤に近づいて来た事と思います。

赤、黄、緑と楽しませてくれた野山の紅葉も、あつという間に終わりました。そろそろ冬仕度に入って来ました。高い山間部には、もう雪が積っているという便りも届いています。

さて今月号は役員ヨーロッパ視察、府県視察、乳牛改良同志会府県消流視察など視察報告の記事が中心となりました。ページ数も二十八ページと、今までで一番多いページ数になったと思います。報告の内容も盛り沢山で、視察地の特色など細部にわたり書かれております。一度目を通して見て下さい。色々な発見があると思います。

今年も残すところ後二ヶ月、平成五年度の営農計画書作成も年内に樹立する事となり、今月は何かと忙しい月になりそうですが、皆さん頑張ります。